

【有識者会議議意見概要】

日 時：令和4年12月17日（土）

出席者：（有 識 者） 愛知工業大学 中井孝幸 教授
茨城大学 山田 稔 教授
市図書館協議会 谷口昭三 委員長

■ 建設敷地・スペースの評価について

- ・図書館建物は平屋で整備するのが望ましい。(延べ床面積)4,500 m²で候補地1においては、平屋は無理であり、候補地2でも厳しい。
- ・候補地3は(都市公園法により)建ぺい率 15%なので、(公園面積 30,000 m²×15%=4,500 m²の平屋で建築する場合には)平屋での建築がギリギリ可能と思われる。
- ・親と子は最低でも同じフロアで過ごせるようにすべき。そう考えると、できることならば平屋がベストである。
- ・設計の自由度が高い場所を用意するのが良い。
- ・図書館をできるだけ平屋にするというのが良ければ、各候補地でそのような条件を満たす設計が工夫次第でできるか否かというあたりは、専門家の意見をよく伺う必要があると思う。
- ・駐車場の形態を平面とするか立体とするかによっても違いが出るが、立体駐車場に関しては地域性もある。

■ 立地性の評価について

- ・利用者の多くが自動車で来館するとは言え、周辺に居住がないと利用減になる。単に敷地が大きければ良いということではなく、周りに人が住んでいる場所であることも重要である。
- ・他施設との連携について、ウォーカブルなまちづくりということが言われているが、その施設に車を停めて、そこを拠点としてまちなかを歩いくといった「ウォーカブルなまち」の実現もできるのでは。そのため、ほかの施設が周りにあるということはメリットになる。
- ・候補地1は、駅にも近く、時間帯で車の進入を止めて歩行者天国にするなど頑張ればウォーカブルな空間を整備し易いと思う。
- ・候補地1は現図書館が建っている場所であり、市民にとって親しみやすさがある。
- ・候補地2は商工会議所郵便局に隣接し、いい場所。地域の活性化が期待できる可能性がある。
- ・候補地3は敷地が広いので使いやすい図書館を造りやすいのでは。
- ・図書館の周辺にいろいろな施設があることはメリットである。特に親和性の高い施設であれば相乗効果がより期待できる。
- ・周辺施設との連携については、公共施設との連携だけでなく、周辺の民間施設の立地(新規立地も含む)や連携なども考慮して評価した方が良い。

- ・利用者の回遊, 歩きたくなる(ウォーカブルな)まちの実現にもつながる。
- ・コンビニなどが近くにあるかどうかということ を考慮すると駅に近い場所も有利であると言えるのでは。
- ・図書館と公園との接している部分の作り方次第で, 芝生やウッドデッキなど整備してあれば使われると思う。

■ アクセシビリティの評価について

- ・候補地3は, 渋滞はしないかもしれないが, 安全性の懸念に対する近隣住民への説明が必要になってくる。
- ・コミバスのバス停を設けることができても, ルートが遠回りになり所要時間が増える場合には, 利用者にデメリットが生じることもあるので評価上も考慮すべき。
- ・候補地4では, 昭和通からの車両の出入りについては, 十分検討する必要がある。(変則交差点となり, かつ信号機の設置が深手あることなどから検討が必要)
(歩道が混雑するときや双子用ベビーカーが通れない等の懸念)